



日本一早い種子島産コシヒカリ出荷開始
平成30年度早期米出発式

「7月13日」南種子町ライスセンターで、平成30年度JA種子屋久早期米「種子島産コシヒカリ」出発式が執り行われました。鮫島組合長が、「昨年は自然災害で農産物は厳しい状況だったが、今年産は量・質ともにいい。販売を拡大して種子島産コシヒカリの銘柄を確立をしていきたい。」と挨拶しました。

今年30、603袋/30キロ玄米の集荷を計画しており、8月5日まで出荷を行う予定です。



▲挨拶する鮫島組合長



▲種子島の新米が出発



▲安全を祈願してのバンザイ三唱

平成30年度 JA種子屋久
協同組合大学開講式

「7月13日」本所会議室において、JA種子屋久協同組合大学開講式を開き、各支所長からの推薦で12名の受講生が第2期生となりました。

幅広い視点を持った地域・農業を担う次世代リーダーの育成を目的に年5回の講義を行っていく予定で、受講生からは、「いい機会なので深く勉強し、今後に活かしたい。」と期待する声が多く上がりました。

開講にあたり中央会の瀬戸口教育部長を講師に「JAのあゆみと仕組み、そして今問われているもの」と題した講義があり、受講生は、真剣に聞き入っていました。



▲講義を行う瀬戸口教育部長

中種子中学校
新米給食交流会



▲会話が弾む交流会

「7月18日」中種子中学校で、収穫したばかりの新米を使った学校給食交流会が開かれ、各関係者・生徒約30人が出席しました。

当JAの黒木常務が「体作り、栄養を整えるのはお米。感謝の気持ちをお米に味わって食べてください。」と挨拶しました。新米の他にも、ワイワイ畑の種子島産野菜が多く使われたメニューとなっており、3年生の秋山優樹さんは「普段は何気なく食べていた。作ってくれた人のことを考え感謝しながら食事です。」とお礼の言葉を述べました。

